

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

学祖跡見花蹊は、日本の誇る伝統文化を踏まえ、豊かな教養と自由な精神を持つ自立した女性を育てようとした。学祖の教育理念を継承する跡見学園女子大学は、時代と社会に対する深い洞察力を養成することが学問の府としての最大の社会貢献であると認識し、実践的な教養を備え、自律し自立した女性を育成するための教育・研究を実現する。多くの女子教育機関が「良妻賢母」の育成を建学精神とするなかにあつて、本学は創立以来、学生一人ひとりの自己実現を目指す教育を貫いてきた。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

人文学科は、「日本文学」「創作・表現」「日本史」「西洋史」「美術史」「総合文化」「現代思想・社会」「国際教養」の8つの分野の履修モデルを設定し幅広い教養を培い、また、多様な価値観を理解して行動し、文化創造の発展に寄与できる、以下の3つの能力を身につけることを目指す。

- 1) 日本文学、創作・表現、日本史、西洋史、美術史、総合文化、現代思想・社会、国際教養に関する幅広い知識を蓄え、その知識を活用して情報を収集し、論理的に分析する能力。
- 2) 上記の各分野に関して、自己の意見を表現し、また、様々な問題を多角的な視点から捉え、ディスカッションできる実践的なコミュニケーション能力。
- 3) 身につけた知識や能力を活かし、他者と協調・協働して目的実現のために行動し、社会に貢献できる能力。

デジタル・情報化社会が進展して主体的に生きる力の養成が一層求められる状況への対応として、令和7年度より新カリキュラムがスタートし、本学科では新たに「地理学概説」「倫理学概論」が新設される。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

現在、教師に求められている資質能力には、専門職としての教職、教育者としての使命感、人間理解と教育的愛情、専門的知識と豊かな教養、実践的指導力などが考えられる。変化の激しい時代に負けない子どもたちの「生きる力」を育むために、次の事項を教員養成の重点としている。

- 1) グローバルな視点にたつて思考し行動できる資質・能力の育成…日本文化の伝統文化の尊重、異文化理解、自主的精神に満ちた人間尊重の感性、ボランティア精神や特別支援など多様な価値観の尊重。
- 2) 新たな教育課題に対応し、自律し自立できる教師の育成…豊かな個性を尊重、創造力の涵養、自ら学び続ける自己教育力や自己表現力の意図的育成、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、ICTを用いた指導法、道徳、チーム学校などへの理解
- 3) 教員の職務から求められる資質・能力の向上…学問体系を背景にした専門的知識・技能、教育に対する情熱や使命感、多様な生徒理解の方法や一人一人に応じた指導力の育成

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

人文学科は、幅広い教養を持ち、多様な価値観を理解して行動し、文化創造の発展に寄与でき

る教員の育成を目指している。実技科目の豊富な配置、教科に関連するゼミの選択、および「卒業論文・卒業研究」の履修等、教科の専門性を高めるように教職課程の教育課程を工夫して、教員としてふさわしい教科指導力の養成に努めている。また、「道徳教育指導論」「生涯学習概論」「図書館概論」「博物館概論」など「大学が独自に設置する科目」を設け、教師として意欲的で積極的に学ぶ基本的な姿勢が培われることを目指している。

本学科では「日本文学」の履修モデルで文学・国語・古典を専門的に学ぶ学生には国語科教職課程を、「創作・表現」の履修モデルで書道を専門的に学ぶ学生には書道科教職課程を設置し、これまで、生徒の自己実現を目指す熱意ある国語科・書道科教員を多数養成して中等教育の現場に送り込んできた。しかし、新たなカリキュラム編成により学びの範囲が広がった「日本史」「西洋史」「総合文化」「現代思想・社会」「国際教養」の履修モデルで、歴史学・哲学・地理学・現代社会・国際教養を専門的に学んだ学生には、教職の道が閉ざされている。これらの履修モデルで学ぶ学生が大半であり、教職を志望する者も少なくなかったにもかかわらず、これまで社会科教職課程は設置されてこなかった。昨今の「ポリクライシス（複合危機）」と呼ばれる地球規模における社会的危機の発生は、多くの学生をして、歴史学・哲学・地理学・現代社会・国際教養への関心を高めさせ、それらの分野に関する本格的な学びに向かわせ、社会科教員への志望を増加させている。こうした学生のキャリア選択肢を増やすため、また、社会的要請という観点からも社会科教職課程を開設する必要があると考える。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

人文学科

中学校教諭一種免許状（社会）

気候変動、疫病、紛争など昨今の地球規模における社会的危機は、私たち一人ひとりの生命を脅かしつつある。こうした問題に対処するため成長期の早い段階から主体的に社会を考察する能力が求められている。中学校社会科教員の役割がますます重要となっている。にもかかわらず年々学校現場における教師不足は深刻化している状況である。本学科は、「日本文学」「創作・表現」「日本史」「西洋史」「美術史」「総合文化」「現代思想・社会」「国際教養」の8つの分野の履修モデルを設定して幅広い教養を培い、また、多様な価値観を理解して行動し、文化創造の発展に寄与できる人材育成を行うことを理念としている。こうした理念で示した各年次の履修計画に基づく学習の結果、学生は、主体的に社会を考察する能力とともに、積極的に社会貢献しようとする意欲をも養成される。社会科教員になりたいとの学生たちの要望も多く、また、本学の育成する「自律し自立した女性」が活躍する舞台としても社会科教員はふさわしいと考える。

学科の教育理念、および教職課程の設置趣旨により、論理的に分析する能力、実践的なコミュニケーション能力、社会に貢献できる能力を併せ持つ教員の育成が本学科の社会的責任であると考え、中学校教諭（社会）の教職課程を設置するものである。

高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

学習指導要領では地理歴史科の目標を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」と記載している。本学科は、日本文学、創作・表現、日本史、西洋史、美術史、総合文化、現代思想・社会、国際教養に関する幅広い教養を培い、また、多様な価値観を理解して行動し、文化創造の発展に寄与できる人材育成を行うことを理念としている。こうした理念で示した各年次の

履修計画に基づく学習の結果、学生は、高等学校における地歴科教育に係る基礎および専門知識を修得し、高等学校地歴科教員としての教育力が育成される。

学科の教育理念、および教職課程の設置趣旨により、論理的に分析する能力、実践的なコミュニケーション能力、社会に貢献できる能力を併せ持つ教員の育成が本学科の社会的責任であると考え、高等学校教諭（地理歴史）の教職課程を設置するものである。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程会議
目的：	教育課程編成に関する方針に係る事項等を審議する
責任者：	学長
構成員(役職・人数)：	学長、副学長、文学部長、文学部学務委員長、教務部長、教職課程主任、「免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申請書」において文部科学大臣に届けている実習校の校長(2名) 計8名
運営方法:	[審議内容] ①教育課程編成に関する方針に係る事項 ②教育実習に関する重要事項 ③教育課程主任の選出に関する事項 ④その他教職課程に関する重要事項 [開催時期] ①年2回(4月、10月) ②議長が必要と認めたとき

組織名称：	教職課程運営会議
目的：	教育課程編成に関する事項等を協議する
責任者：	文学部長
構成員(役職・人数)：	文学部長、人文学科主任、文学部学務委員長、教職課程主任、文学部長が指名する下記に挙げる者 ①教科及び教科の指導法に関する科目を担当する専任教員、②教育実習を担当する専任教員 計9名
運営方法:	[協議内容] ①教育課程編成に関する事項 ②教育実習の実施・運営・成績評価に関する事項 ③その他教職課程の運営に関する事項 [開催時期] ①年1回(1月) ②議長が必要と認めたとき

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

理事会—経営会議—大学評議会—文学部教授会—執行部会議—教職課程会議—全学学務委員会—教職課程運営会議

II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

「教員養成課程を有する大学との連絡協議会」を通じて埼玉県教育委員会と、「ちば！教職たまごプロジェクト」大学担当者説明会を通じて千葉県教育委員会と交流している。 「教職課程会議」を通じて、教育実習受入校である跡見学園中学校・高等学校、京華女子中学校・高等学校から意見聴取を行なっている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	「彩の国かがやき教師塾ベーシックコース」「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加
連携先との調整方法：	1、2年生を対象とした教職課程説明会において参加を促す
具体的な内容：	埼玉・千葉県内市町村立小学校、中学校、義務教育学校および県立特別支援学校に

において、校長等の指導の下、①学習指導の補助、②学級担任の補助、③学校行事の補助等のボランティア体験を行う

Ⅲ. 教職指導の状況

【1年生教職課程説明会】2月中旬

- (1) 教職課程の意義
- (2) 「教職課程」ガイダンス

【2年生教職課程説明会】2月中旬

- (1) 教職課程の意義
- (2) 「教職課程」ガイダンス

【介護等体験事前指導】

1. 介護等体験第1回オリエンテーション（2年） 2月中旬

- ・介護等体験の意義と具体的方法
 - (1) 介護等体験の意義
 - (2) 「介護等体験」の具体的方法
 - (3) 「介護等体験」体験発表（3年生などによる）

2. 介護等体験第1回オリエンテーション（3年） 4月中旬

- ・介護等体験の実際
 - (1) 介護体験先と体験日時の決定
 - (2) 介護体験実施時の諸注意

【教育実習事前指導】

第1回・第2回オリエンテーション（3年） 4月中旬

- ・教育実習の意義
 - (1) 教育実習の意義、教育実習参加についての心構え
 - (2) 教育実習校の選択と実習依頼。事前打合せの方法

第3回・第4回オリエンテーション（3年） 12月中旬

- ・教育実習の準備
 - (1) 教育実習の意義
 - (2) 教育実習の準備と心構え、教育実習校との連絡
 - (3) 「教育実習」体験発表（4年生）
 - (4) 望まれる教師像（教育委員会指導主事による講義）

第5回・第6回オリエンテーション（4年） 4月中旬

- ・教育実習の実際
 - (1) 教育実習実施上の諸注意

様式第7号イ

- (2) 教育実習日誌の記入の仕方
- (3) わかる授業の実践、指導案、教材の活用、板書等
- (4) 教員採用試験について

《教育実習》（4年）・・・[5,6月または9,10月、2週間～4週間]

- (1) 教育実習校における実習（観察実習・授業実習）
- (2) 研究授業の実施、協議会への参加

【教育実習事後指導】

第7回・第8回オリエンテーション（4年） 6月下旬

- ・教育実習事後指導
- (1) 教育実習のまとめ
- (2) 教育実習体験発表
- (3) 諸事後処理

様式第7号ウ

＜人文学科＞（認定課程：中一種免（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法を含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(語学・スポーツ)について理解する。 ・社会科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し実践できるようになる。 ・教職の意義や教師の役割、求められる資質能力等について理解し、説明することができる。 ・教育方法の基本原則を理解し、授業における基礎的な指導技術を身につけることができる。 ・社会科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
2年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する制度・法律について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領における「特別活動」「総合的な学習の時間」の意義・目的・内容を理解し、説明することができるようになる。 ・社会科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談(カウンセリング含)に関する基礎的理解をはかる。 ・生徒指導及び進路指導・キャリア教育に関する基本的概念を理解する。 ・特別支援を必要とする生徒の特性について理解し、説明できるようになる。 ・社会科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
3年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・学校教育に関する事例や教育課題について、多面的・多角的に捉えることができるようになる。 ・教育課程に関わる基礎理論を理解するとともに、教師の立場で教育課程を理解する。 ・教育課程に関わる基礎理論を学ぶとともに、教師の立場で教育課程を理解する。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の授業で扱う教材の教材研究の仕方を学び、社会科の教員としての実践的な指導力を身につける。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・社会科を構成する内容について、より深く理解・分析し、教育の場で活かせる力量を育成する。
4年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・社会科を構成する内容の理解・応用について、卒業論文執筆準備等を通じて継続的・発展的な深化を図る。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情等について自覚し、説明することができる。 ・社会性や教員としての対人関係を築く能力について身に付け、説明することができる。 ・生徒理解の深化を図るとともに、学級経営を円滑にできるような能力を身に付け、説明することができる。 ・社会科を構成する内容の理解・応用について、卒業論文執筆等を通じて継続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ

<人文学科>(認定課程:高一種免(地理歴史))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法を含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(語学・スポーツ)について理解する。 ・地理歴史科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し実践できるようになる。 ・教職の意義や教師の役割、求められる資質能力等について理解し、説明することができる。 ・教育方法の基本原則を理解し、授業における基礎的な指導技術を身につけることができる。 ・地理歴史科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
2年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する制度・法律について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領における「特別活動」「総合的な学習の時間」の意義・目的・内容を理解し、説明することができるようになる。 ・地理歴史科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談(カウンセリング含)に関する基礎的理解をはかる。 ・生徒指導及び進路指導・キャリア教育に関する基本的概念を理解する。 ・特別支援を必要とする生徒の特性について理解し、説明できるようになる。 ・地理歴史科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
3年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・学校教育に関する事例や教育課題について、多面的・多角的に捉えることができるようになる。 ・教育課程に関わる基礎理論を理解するとともに、教師の立場で教育課程を理解する。 ・教育課程に関わる基礎理論を学ぶとともに、教師の立場で教育課程を理解する。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・地理歴史科の授業で扱う教材の教材研究の仕方を学び、社会科の教員としての実践的な指導力を身につける。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・地理歴史科を構成する内容について、より深く理解・分析し、教育の場で活かせる力量を育成する。
4年次	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・地理歴史科を構成する内容の理解・応用について、卒業論文執筆準備等を通じて継続的・発展的な深化を図る。
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情等について自覚し、説明することができる。 ・社会性や教員としての対人関係を築く能力について身に付け、説明することができる。 ・生徒理解の深化を図るとともに、学級経営を円滑にできるような能力を身に付け、説明することができる。 ・地理歴史科を構成する内容の理解・応用について、卒業論文執筆等を通じて継続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

<人文学科>（認定課程：中一種免（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	春学期	教育原理	日本史概説A	図書館概論	日本国憲法	日本美術史A
		教育の方法及び技術	西洋史概説A	生涯学習概論	体育実技(球技)	西洋美術史A
			東洋史概説		英語A Ia	
			地理学概説		データサイエンス基礎	
			哲学概論			
			国際関係学			
	秋学期	教育心理学	日本史概説B(近代)	博物館概論	体育実技(ラケット種目)	日本美術史B
		教職論	倫理学概論		英語A Ib	西洋美術史B
		教育とICT活用	西洋史概説B(近代)		情報リテラシー基礎	
2年次	春学期	教育制度及び教育法規	民俗学			人文学研究入門J(現代思想・社会)
		特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法	考古学概説			
		道徳教育指導論	社会学			
			文化人類学			
			経済学			
	秋学期	特別支援を必要とする生徒理解	法学			人文学研究入門L(国際教養)
		教育相談及びカウンセリング	政治学			国際文化交流
		生徒指導及び進路指導				
		社会科教育法A	人文地理学	博物館情報・メディア論	近代美術史(鑑賞を含む)	
		社会科教材論A	アメリカ史	教育学概論	国際連合	

3年次	春学期	教育課程論	西洋文化史			
			国際社会論			
			現代ヨーロッパ社会			
			世界の宗教			
			西洋哲学史			
	秋学期	社会科教育法B	イスラム史	博物館教育論		多文化社会と民族問題
		社会科教材論B	日本の歴史と社会			現代中東アフリカ論
			現代アメリカ社会			
			現代思想			
			自然地理学			
			日本外交史			
4年次	春学期		日本文化史	学校経営と学校図書館		国際協力論
			中国文化史			風俗史
			地誌学			
			女性と文化			
			中国哲学史			
			現代日本社会			
			国際法			
			国際経済			
			日本思想史			
	秋学期	教育実習(中・高)	現代アジア社会	学習指導と学校図書館		文化財学
		教職実践演習(中・高)	ヨーロッパの歴史と社会	情報メディアの活用		東洋美術史(鑑賞を含む)

様式第7号ウ（教諭）

<人文学科>（認定課程：高一種免（地理歴史））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	春学期	教育原理	日本史概説A	図書館概論	日本国憲法	日本美術史A
		教育の方法及び技術	西洋史概説A	生涯学習概論	体育実技(球技)	西洋美術史A
			東洋史概説		英語A Ia	
	秋学期				データサイエンス基礎	
		教育心理学	日本史概説B(近代)	博物館概論	体育実技(ラケット種目)	日本美術史B
		教職論	西洋史概説B(近代)		英語A Ib	西洋美術史B
	教育とICT活用			情報リテラシー基礎		
2年次	春学期	教育制度及び教育法規	文化人類学			人文学研究入門E(日本史)
		<small>特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法</small>	地理学概説			
			考古学概説			
	秋学期	<small>特別支援を必要とする生徒理解</small>	民俗学			人文学研究入門D(日本史)
		教育相談及びカウンセリング				
		生徒指導及び進路指導				
3年次	春学期	地理歴史科教育法A	西洋文化史	博物館情報・メディア論		
		教育課程論	アメリカ史	教育学概論		風俗史
			地誌学			
	秋学期		人文地理学			
		地理歴史科教育法B	日本の歴史と社会	博物館教育論		東洋美術史(鑑賞を含む)
			自然地理学			現代中東アフリカ論
4年次	春学期		日本文化史	学校経営と学校図書館		近代美術史(鑑賞を含む)
			中国文化史			
	秋学期	教育実習(高)	ヨーロッパの歴史と社会	学習指導と学校図書館		多文化社会と民族問題
		教職実践演習(中・高)	イスラム史	情報メディアの活用		文化財学
			日本外交史			